



2012/12/18 配信 vol.4

◆◆被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ【東北こそだてレター】◆◆  
～宮城県・ベビースマイル石巻の活動から考える「母親主体の団体への支援」～



※このメールは、(社)ジェスペールの活動に応援・ご寄付をいただいている  
皆さまにお送りしております。  
過去のメールマガジンはこちらをご覧ください  
<http://tohokumama.org/kosodate-letter.html>

みなさま、こんにちは。 一般社団法人ジェスペールです。

12月7日の地震と津波では、お怪我や被害はなかったでしょうか。  
震災後、当時の記憶が残った状態で避難訓練に参加していても本当の地震に遭うとやはり動揺してしまいま  
すね。

今回の地震で東日本大震災の記憶がよみがえってしまった方もいらっしゃるかもしれません。被災地の方々  
のご心痛が少ないものであるよう祈っています。

さて、11月8日に代表の宗の論説が、朝日新聞“私の視点”に取り上げられました。  
ジェスペールHPでも記事のコピーをご覧いただけますが、今回ぜひご覧いただきたく全文をご紹介します。

また、今月の「被災地から」は、“私の視点”でも取り上げているベビースマイル石巻です。代表の荒木さん  
は、助産師さんではなく、子育て中の母親としての立場から、母子支援の必要性を強く感じて活動をしてい  
ます。

被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。



◆ 目次



- └ 朝日新聞“私の視点”  
[http://tohokumama.org/images/main/20121108\\_asahi.pdf](http://tohokumama.org/images/main/20121108_asahi.pdf)
- └ 被災地から（宮城県石巻市 NPO 法人ベビースマイル石巻）  
<http://www.forbabysmile.com/>
- └ ジェスペールの活動のテレビ映像紹介  
[http://www.tv-tokyo.co.jp/mv/newsanswer/lives/post\\_28157/](http://www.tv-tokyo.co.jp/mv/newsanswer/lives/post_28157/)
- └ 支援実績（岩手・宮城・福島）
- └ 「東北こそだてプロジェクト」をご支援いただいている皆様へ  
（ジェスペール代表・宗祥子より年末のご挨拶）
- └ 編集後記



- ◆ 朝日新聞“私の視点”（11/8掲載）  
宗 祥子（松が丘助産院院長、一般社団法人ジェスペール代表理事）  
[http://tohokumama.org/images/main/20121108\\_asahi.pdf](http://tohokumama.org/images/main/20121108_asahi.pdf)



※以下は11/8の朝日新聞“私の視点”を全文掲載したものです。

私が副会長を務めていた東京都助産師会は昨年度、東日本大震災の被災地に住む妊産婦を都内の助産院で受  
け入れる、「東京里帰りプロジェクト」をおこなった。

東京への避難を希望する妊産婦に、まるで里帰りしたかのような安心の中で産前産後の時間を過ごしてもらおうという狙いで、79人の妊産婦が利用、23人が東京で出産した。また、被災地の妊産婦向けの電話相談や、現地の助産師と連携した支援活動も実施。必要な資金は、一般の方々の寄付金や日本財団の援助で賄った。

被災地の妊産婦の実態は予想以上に深刻だった。プライバシーのない避難所では赤ちゃんへの授乳も難しい。子どもが泣いて迷惑をかけるのを恐れ、車の中や壊れた家屋の2階で生活する人。放射線被曝を恐れ、遠い親戚の家を転々とする人もいた。

被災地では妊産婦の支援が手薄になりがちだ。普通の人とほぼ同じように動けるため、サポートの必要性が気づかれない。お産への無理解も気掛かり。避難所の責任者に妊婦のケアをお願いしたら、「陣痛が起きれば、ヘリコプターで病院に運ぶ」と言われたが、支援の必要性は出産時に限らない。妊婦のストレスは早産や出産時の異常につながり、胎児の心身にも影響を与えかねない。出産後、母親が安心できる環境になれば、赤ちゃんのケアもままならない。

狭くて防音も不十分な仮設住宅は、子育ての場として、理想からほど遠い。とりわけ出産してすぐに仮設住宅に戻るのは負担が大きすぎる。そう考え、昨年7月、福島県助産師会とともに会津若松市に、「おひさま」という産後ケアの施設を立ち上げた。

さらに今年になって、現地の団体と協力し、被災地でより継続的な支援を手掛ける一般社団法人・ジェスペールを創設。「東北こそだてプロジェクト」にも着手した。岩手県の大船渡市と陸前高田市ではボランティアの助産師たちが月2回、妊産婦たちがくつろいで集える場、「こそだてシッフ」を開き、宮城県石巻市でも母親自身が中心となった「ベビースマイル石巻」が、育児相談や親子の居場所づくりに取り組んでいる。



現在、西友などの企業から援助を受け、寄付金も募っているが、子育て支援はお金だけでうまくいくものではない。住民一人ひとりの、妊産婦や赤ちゃんへの気遣いこそが大切だ。それが被災地全体の支え合いにもつながっていくと、私は信じる。

妊産婦への支援は、将来の復興を担う次世代育成につながる。最も力を入れるべき取り組みの一つなのである。



◆被災地から ～「NPO 法人 ベビースマイル石巻」 宮城県石巻市  
<http://www.forbabysmile.com/>



子育て中の母親が主体となり、妊婦から未就園児親子までを対象としたイベントやサロン活動を行っている「NPO 法人 ベビースマイル石巻」。

毎月10～15回開催し、参加者は毎月約200人と、とても活発に活動しています。

一方で、震災から2年が経とうとしている今、運営している母たちの負担が重くなりすぎているという問題も出てきています。



2男児の母である代表の荒木裕美さんは、大震災後から2年近く、何の後ろ盾もない中で、石巻の母子のために走り続けてきました。しかし、いまだに行政や地域の支援は得られず、活動拠点も見つからず、資金も不足しています。活動を続けていきたいけれど、行政からの支援の先が見えない——。荒木さんは今、支援の手を切実に求めています。

\*\*\*\*\*

#### ◇◆感謝の声に支えられ

12月のある日。雨にもかかわらず、市内の蛇田生協2階の集会室に10組の親子が集まってきました。この日は「親子ビクス・ベビー」の日。お母さんたちは赤ちゃんを抱っこしたりそばで見守りながら、抱っこで凝った体を気持ちよくストレッチ。つづいてお母さんが赤ちゃんへマッサージを始めると、心地よさそうに眠ってしまった子もいました。

別の日には、市内の向陽町コミュニティセンターで「アレルギーっこサークル」が開かれました。卵アレルギーやハウスダストアレルギーなどを抱える8組の親子が集い、「石巻のアレルギー対応給食」について学習。

市の対応が近隣の市よりも遅れていることを知り、「石巻のアレルギーっこにも安全なものを食べさせてあげたい」との意見で一致しました。

このほかにも、ベビーサイン、3B体操、メイク&ハンドマッサージや、季節のイベント「クリスマス会」など、親子で楽しみ、親子が安心して集える催しを、石巻市内の公民館、コミュニティセンターなどを借りて開いています。

震災後は気持ちが落ち込んで外出する気にもなれず、引きこもりになっていたお母さんたちも多かったようです。でも、子どもは体を動かして遊びたがるので、「自分のせいで我慢させてはいけない」と、やっと出てきたという方もいました。



「子どもが楽しそうに遊ぶ姿を見て、自分がとても明るい気持ちになれた。こういう場を作ってくれて本当にありがとうございます」という声もいただきました。同じような声はとても多く、その感謝の声に支えられています。

#### ◇◆津波の犠牲になった友人 悔しさに突き動かされて

私は震災前、この地域で約8年引き継がれていた育児グループにスタッフとして参加していました。しかし、グループを率先して引っ張っていた仲間が、震災で津波の犠牲に。ほかのメンバーも市外へ移転したりと、グループはバラバラになりました。

このグループは、子育て中の自分にとって情報収集の場であり、ほかの子どもと自分の子どもをかかわらせる場所であり、家庭以外の社会との接点の場でもありました。心身ともにいい影響を受けていました。

「友人たちが大切に作ってきた親子の居場所を、何とか再開したい」。

震災2か月後の2011年5月、私は二男を妊娠中(8カ月)の身ではありましたが、自分でもできるのではないかと思い立ち、動きました。

友人が犠牲になったことの悔しさが突き動かしたと思います。主人に支えてもらいながら、まずは任意団体として一人でスタートをきりました。

#### ◇◆無我夢中の時期が過ぎ、ふたたび喪失感も

現在、震災直後に比べれば、緊急的に必要なことはなくなってきました。しかし、いまだに仮設住宅での育児が続き、子どもをのびのびと遊ばせられる公園・施設もないまま。育児環境の改善はありません。震災後、空いている場所には仮設が建ち、以前より公園が減少しています。

被害の大きかった方は、これまで自分の生活を再建することに必死の毎日を送られてきました。手続きなどもたくさんありましたし、子供を連れてそれを解決していくのは本当に大変なことでした。

無我夢中の時期が過ぎたからこそ、「なぜ私はいまここにいるのか、なぜここに住んでいるんだろう……と時々ふと思うんです」という方もいます。喪失感がまたわいてきてしまうこともあるようです。



仮設に住む母親たちは、自分たちがどこに移り住むのか、先が見えない方も多く、それが漠然とした不安となって、日々気持ちが落ち着かない様子がみられます。中には、育児の疲労と重なり、精神的に弱くなり、育児自体が心身の負担になっている方もいます。

みんな本当に、強い気持ちでがんばっています。イベントで楽しくしているときには笑顔ですが、震災の時の話を改めてしようと思うと、まだまだ当時を思い出して苦しくなり、涙してしまいます。みんな、つらい気持ちを押し込めてしまっているのではないかと思います。

通常の育児でだけでも、母親は神経と体力を使っています。そのうえさらに大きな不安感があるのですから、

母親を孤立や虐待に向かわせないよう、声かけをしていく必要性があると強く感じています。

#### ◇◆気持ちだけでは続けられない現実も

震災からもうすぐ2年がたちます。しかし、心はまだ2年前と同じまま。

癒えない心の傷を持った方がたくさんいます。

傷も多種多様で、どんな安易な言葉が人を傷つけているか分かりません。

それでも私たちは、人とのつながりがどんなに大切なことかを知ったからこそ、つながることを強く求めています。

子どもを産み、育て、守る。

命がつながっていくことはとても大事なことです。当事者の私たちはそれを一番わかっているから、自分たちで発信しています。活動をもっと深めて根付かせたいと思っています。

一方で、私たちは子育て中の母親だけで活動しているので、通常の活動で精いっぱい。活動の場所や資金など、サポートをお願いしたくても、声を届けることもひと苦労なのが現実です。時間も多くは割けません。

こんな大切なことをなぜ手つかずにしているのか——

という思いもあります。石巻の土地や建物などハード面での復興がまだまだ進まない中、行政等によるソフト面での支援は本当に先の話なのです。

助成金などでも、どの団体も平等なのは仕方はないのですが、母親が主体の団体としては、申請したり、その後報告したりするのは、代表の私に負担がかかりすぎる感じがあります。

もっと地域からのサポートがあれば……。

行政や地域から活動場所の提供があれば……。

「こういう場所は、地域として必要なんだ」という共通認識が必要だと思います。

この2年、私たちがひとりひとり、顔の見えるつながりを作ることで、自主的に子育て環境を復興させていく一助となれば——

という気持ちだけで進んできました。

けれど、気持ちだけでは続けられない現実もあります。

どうか皆様のサポートを、ぜひ、お願いいたします。

応援をお願いいたします。

最後に。

震災後に、命を守りたいと強く思ったあの時のことを、後世に残したいと、「子どもたちへ～ママたちがいま伝えたいこと～」という文集を作りました。

文集1冊1,000円～のご寄付をお願いしてお渡していますので、ご覧いただければ幸いです。

※文集は、HPお問い合わせよりお申し込み下さい。

<http://www.forbabysmile.com/>



#### ◆ ジェスペールの活動がテレビで放映されました！



10/5（金）テレビ東京「NEWS アンサー」で「大船渡こそだてシッパ」の活動の様子、ジェスペール代表・宗祥子のインタビューなどが放映されました。

「命を見つめる、暮らしを変える」をテーマとする、重点報道LIVESにて、3日連続企画”子育てを支える”特集の中の一つとしてご紹介いただいたものです。

下記サイトでご覧いただけます。

[http://www.tv-tokyo.co.jp/mv/newsanswer/lives/post\\_28157/](http://www.tv-tokyo.co.jp/mv/newsanswer/lives/post_28157/)



現地での活動の様子を映像で見ることができます。ぜひご覧ください！



◆ 支援実績（2012/11/30 現在）



<支援母子数>

11月： 359組 【計2,119組】

<活動場所>

岩手（大船渡・陸前高田・釜石・大槌・遠野）  
宮城（石巻、気仙沼、亶理、名取）  
福島（いわき、相馬）

<活動内容>

育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビー体操/  
ママのリフレッシュ体操／親子ピクス／仮設巡回訪問



◆ 「東北こそだてプロジェクト」をご支援いただいている皆様へ  
（ジェスペール代表・宗祥子より年末のご挨拶）



今年も間もなく幕を閉じようとしておりますが、皆様には多大なるご協力を頂きましたことを心から感謝いたします。

（社）ジェスペールでは、被災地の母子支援のため、昨年の「東京里帰りプロジェクト」を引き継ぎ、今年7月より「東北こそだてプロジェクト」を実施しております。

「東京里帰りプロジェクト」の終了が決まった後、「日付が変わったからと言って、現地の状況が突然変わるわけでもなく、東日本大震災の爪痕は決してなくなっていない。さらにこれから新たに出てくる問題もあるはずだ。それにもかかわらず、多くの支援や助成などが1年で終了するのでは、これからどうすればよいのだろう」と強く感じました。

そんな中で、何とかして今までの支援を続けたい、できれば現地が自立していけるまで、またお母さんたちが元を取り戻し被災地の復興の担い手となるまで、何らかの支援を続けたいと考え、社団法人ジェスペールを立ち上げました。  
名称はフランス語で「希望する」という意味です。未来に希望を持ち歩んでいきたいと名付けました。

この「東北こそだてプロジェクト」の存続を支えてくださっているのが、7月からの支援を決定して下さった西友walmartさんです。6月に前プロジェクトが終了し、間をあげずに支援継続できるようにご配慮いただきました。また、西友の執行役員の金山様は、今年9月に、大船渡・陸前高田の「こそだてシップ」の活動を実際に視察に行ってください、この活動の重要性を再確認して下さいました。

日本看護協会からも、当プロジェクトを看護職の被災支援活動として評価していただきました。

また個人的にご寄付くださっている多くの皆様のご支援が、この活動の本当の意味で基礎となっております。

さらに、昨年東京里帰りプロジェクトに多大な助成金を拠出して下さった日本財団様も、今後のプロジェクト活動について、陰になり日向になりお手伝いくださっています。  
その御縁でグロービス経営大学院からのご支援もいただくことができました。  
ジェスペールの広報や事務担当として欠くことのできないメンバーである稲葉は、グロービスに在学中です。

HPを見て頂くとわかるように、私達は多くの方々に支えられて、広範囲の支援を続けることができています。最近また新たな企業が、支援を決定して下さいました。

妊産婦の支援はお腹の中の子どもや乳幼児を含む子どもたちの支援でもあり、将来の復興の担い手を支えることです。

この活動の重要性を皆様方にご理解いただいていることを心から感謝申し上げますとともに、来年も皆様に支えられ、被災地の助産師やお母さん達との連携を大切に、妊産婦や乳幼児を取り巻く状況が少しでも好転

できるよう、支援を続けてまいりたいと思います。

一般社団法人ジェスペール 代表 宗 祥子



---

◆ 編集後記

---

2012年がもうすぐ終わりますね。今年もあっという間でした。  
先日は選挙がありました。ただでさえ慌ただしい師走に選挙が重なりましたので、対応に追われて大変な思いをされた方もいらっしゃるかもしれません。  
お正月まであともう少し、何とか年末を乗り切ってゆっくりお休みできるといいですね。

そんな年末の中、私はプリンタが壊れてしまったので、年賀状作成をどうしようか思案中です。  
忙しさとプリンタ故障を言い訳に、今年は年賀状作成をサボってしまいそうな…そんな予感がしつつあります…。

皆さまは年賀状作成頑張ってください！

それでは皆さま、どうぞ良いお年をお迎えください。(事務局：稲葉)

---

◆「東北こそだてプロジェクト」メールレター◆

---

発行者：一般社団法人ジェスペール

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>  
お問い合わせ先：[info@tohokumama.org](mailto:info@tohokumama.org)  
Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>  
Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>

解除：[http://tohokumama.org/mail/register\\_merumaga.html](http://tohokumama.org/mail/register_merumaga.html)

◆本メールレターの著作権は発行者・執筆者に帰属しておりますが、情報を広めるために、とご判断いただいた場合は、出典先を明らかにした上で許可なくご自由に転送、転載、回覧していただいて構いません。

Copyright (c) 2012 Jespere, All rights reserved

